

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四）の日記『異軒日記』の大正二年の上半期分について引続き紹介したい。この年、井上は在職二五年、そして一二月には六〇歳を迎える。なお、凡例については本誌第三一号で述べていることから割愛する。

Bergson

異軒日記

大正二年（一九一三）「癸丑」上半期

一月

一日、午前、晴天、尚ほ残雪あり、諒闇中なるを以て宮中に拝賀せず、又年始にも赴かず、年始状封書拾五通、葉書九拾五通、合計百拾通、之に旧冬に到着せる年始状を加ふれば、約百拾余通、午後、年始状封書拾通、葉書拾式通合計式拾式通来る、
「大正の新年と婦人の覚悟」大正婦人に出づ、書状を大町美種に送る、Henri Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、年始状封書式通来る、夜、引続き、

種
• Y ç Y è | 8H @

姿誌

書 庄宪邁忡木知鷺け け 豈朗烈 侯鏢卅Q知 “ V嶷盈

通、葉書五通、合計九通、
に付与す、夜、引続き、

「中学終身」
一、千部の奥附を文学社

近松よりジヤムと新發明の草紙三冊を送来る、中島利一郎より
来状、書状を黒木安雄に送る、浦谷ふみ来る、Bergson,
Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、渡
邊眞来りて宣光を診察す、夜、引続き Bergson を読む、伊
藤吉之助来訪す、紀平正美より来状、曹洞宗の速記を訂正す、
山口英爾来談す、

十日、午前、晴天、蓮沼門三及び花見喜代次、雉子吉羽を携来る、
乃ち談話を筆記せしむ、石原憲光、菓子箱を携来る、古川黄
一來る、乃ち之に素行会の訂正速記を付与す、書状を谷本富に
送る、星野恒及び本居豊頼より来状、午后、曹洞宗の速記を
訂正す、帰一協会に上野精養軒に赴く、不在中朝永三十郎来
訪す、夜、十時過帰宅、弘道館及び文成社より来状、

十一日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、講義に高等師範に赴く、
不在中小倉秀道来訪す、書状を谷口喜太郎及び貞金近松に送
る、中島靖九郎(号芳城)来る、有故不遇、井上波野来る、
乃ち之に「求志洞遺稿」を付与す、賀状葉書壱通、封書壱通来
る、曹洞宗の速記を訂正す、夜、引続き速記を訂正す、岩
田晚成処より来状、書状を藤井健治郎に送る、

十二日、午前、晴天、松浦一、蠣瀬彦藏、小倉秀道、小谷重来訪す、
内藤某、宣光を来診す、帝国学士院書記来る、午后、小谷
重来訪す、帝国学士院委員会に赴く、夜、朝永三十郎の歓迎
会に大学山上御殿に赴く、井本隆雄より「前柴録」を送来る、
由布惟義より来状、

十三日、午前、晴天、湯本倉之助及び本多増次郎より来状、講義
に大学に赴く、「新年所感」弘道に出づ、午后、中島靖九郎

来訪す、浦谷熊吉来談す、宣光、衄血、「陽明哲学」五拾

一送る、書状を丸尾永助に送る、雨、
 十七日、午前、晴天、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎来訪す、乃ち幹部会を開く、深作安文と共に昼餐をなす、午后、博品館に赴く、夜、書状を塚原政次及び由布惟義に送る、速記を訂正す、「名古屋文学史」を読む、「頁下部に「奇事異聞」の新聞記事切抜貼付（記事に「萬朝」と朱書きあり）」
 十八日、午前、晴天、疏安会社より来状、文学社より「修正中学修身」を送来る、速記を訂正す、中島利一郎来訪す、東洋大学より来状、宣光少しく軽快、午后、小笠原實成より島根県の名産海苔を送来る、「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、速記を訂正す、白坂英彦来訪す、谷本富より来状、齋藤精輔来談す、井上成美宣光を来診す、夜、速記を訂正す、文成社より来状、The Japan Chronicle を送来る、書状を矢田通及び名古屋永昌堂に送る、雪、
 十九日、午前、晴天、残雪、有賀長雄、有志同盟会及び文芸協会より来状、浦谷熊吉来談す、山田孝雄より「古京遺文」を送来る、「師範修身」一千部、勅語述義參百部の奥附を晚成処に付与す、書状を由布惟義に送る、午后、速記を訂正して之を印刷所に送る、児輩四人、押田三郎宅に赴く、縫子、井上成美宅に赴く、淺野利三郎、菓子を携へて来る、詩稿を浦谷熊吉に送る、小島伊左美より来状、矢野良暁来訪す、書状を帝国学士院に送る、夜、書状を浦谷熊吉に送る、勉強、此日、菓子を雙葉会のマダムに送る、宣光軽快、
 二十日、午前、晴天、若木貞一、三首堂及び晚成処より来状、書状を藤井健治郎に送る、講義に大学に赴く、帝国学士院より
 使者来る、吉田豊吉、菓子を携来る、「聖人と哲人」哲学雑誌に出で、「教育上二三の重要問題」教育学术界に出づ、午后、賀古医院の内藤某及び齋藤基次郎、宣光を来診す、小尾範治、岩崎歌郎来訪す、書状を浦谷熊吉に送る、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、夜、引続きZeller を読む、同文館より来状、教科書会より書類来る、松山守善より「時局小言」を送来る、日之出生命保険会社より来状、宣光愈軽快、
 廿一日、午前、晴天、黒田家より詩稿を送来る、詩稿を黒木安雄に送る、所得税四三、七五、府税市税八、九四、宅地租七、五八五、合計六〇、二七五を郵便局に納む、別に巢鴨宅地租一〇、余を村役場に納む、縫子を三井銀行に遣はす、名古屋の永昌堂より「名古屋文学史」を送来る、書状を淺野利三郎及び藤田誠に送る、森良三郎来談す、為換を永昌堂に送る、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、午后、朝永三十郎妻、姉崎袖子及び大島正徳来訪す、樋口秀雄より書状及び「近代思想の解剖」を送来る、引続きZeller を読む、吉田雪子来談す、小谷重来る、乃ち之に「修身例語辞典」を付与す、押田三郎夫妻、見舞の為に来る、夜、木村鷹太郎及び帝國学士院より来状、
 廿二日、午前、雨天、学習院に赴く、密教社より来状、賀葉書を通来る、午后、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、浦谷熊吉より来状、午後、引続き、Zeller を読む、岸田繁次郎来談す、塚原政次より来状、雨霽れて虹出づ、夜、勉強、
 廿三日、午前、晴天、神奈川県知事大島久満次及び事務官白坂栄彦より来状、中根淑香亭と号す）廿一日を以て長逝すとの報あり、

香亭天保八年を以て生る、享年七十七、晩年興津に孤独生活を送る、浦谷熊吉来談す、Zeller, Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie 及び Lewes, History of Philosophy を読む、午后、女中千代を大学に遣はす、講義に大学に赴く、「晏子春秋」を読む、「東亜の光」口絵を印刷所に送る、夜、中村安太郎及び淺野利三郎より来状、Zeller, Die Philosophie der Griechen 及び Lewes, History of Philosophy を読む、「晏子春秋」を読む、

廿四日、午前、晴天、亀井忠一より来状、田中義能、岡田誠一來訪す、文学社より「中学修身」一部を送来る、「晏子春秋」及び Lewes, History of Philosophy を読む、午后、井上道喜、齋藤愛子、朝永三十郎、松信定雄来訪す、「教界春秋」を草す、縫子、朝永三十郎宅及び中島徳藏宅を訪つて、それ菓子を贈る、桑田芳藏来訪す、「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、晴天、三省堂整理委員より来状、講義に高等師範に赴く、今井辨輔、河瀬秀治の代理として来る、午后、「教界春秋」を草して之を印刷所に送る、林勃爾、貞金近松、浦谷熊吉、来訪す、帰一協会の記事を訂正して之を松信定雄に送る、小尾範治及び押田三郎、東亜協会々員となる、晏子春秋及び呂氏春秋を読む、由布惟義より来状、印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、吉田雪子来る、乃ち俱に晚餐をなす、夜、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、呂氏春秋を読む、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、此日、金港堂より「中学修身」式部を送来る、

廿六日、午前、晴天、矢野良暁来訪す、有故不遇、吉田静致来訪

す、呂氏春秋を読む、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、午后、在萊府友枝高彦より来状、書状を朝永三十郎に送る、細川や、广袈碑~~影~~、艘真~~関~~、葺~~鏡~~、鉞~~悃~~、罽~~遮~~、w)へ~~祥~~まるる、

事類苑」(人部二)を送来る、午後、講義に大学に赴く、本
多日生より来状、「青年学生の勉強法」実業之日本に出づ、「呂
氏春秋」を読む、夜、星菊太来訪す、

廿一日、午前、晴天、森良三郎来る、帝国会計協会より来状、
Armstrong, Japanese Philosophy の序文を草す、午後、英
文の序を草して之を R.C. Armstrong に送る、福来友吉来訪す、
夜、哲学会に山上御殿に赴く、不在中岸田繁次郎来訪す、
帰一協会より来状、此日、帝国学士院より使者来る、大野
太衛、書状を携来る、省軒亀谷行逝く、享年七十六、

二月

一日、午前、晴天、統一団より来状、小倉秀道来る、乃ち談話を
筆記せしむ、浦谷熊吉、岸田繁次郎来談す、「東亜の光」(八
の二)成る、「国民思想の矛盾」東亜の光に出づ、亀谷省軒
の訃報来る、「呂氏春秋」を読む、午後、「呂氏春秋」及び「省
軒文稿」并に「省軒詩稿」を読む、朝永三十郎及び宮川半助よ
り来状、床屋に赴く、夜、上宮教会に赴き、「人間の本性

に送る、「実業道德の観念」企業及経営に出づ、午後、書状
を浦谷熊吉に送る、講義に大学に赴く、教科書会に文部省に
赴く、夜、統一団に浅草に赴き、「儒教と国民思想」

す、車夫を井上成美宅及び其他に遣はす、勉強、午后、講義に大学に赴く、黒田家より詩稿を送来る、黒木安雄より詩稿を送来る、詩稿を黒田家に送る、夜、井上健兒全淳より電報来る、乃ち返電を送る、詩稿を黒木安雄に送る、勉強、夜、半、若松港の大町阿部二氏より電報来る、此日、内閣組織成る、莫南山田喜之助逝く、享年五十五、押田清子来る、廿一日、午前、曇天、山岸光宣来訪す、十時頃出発、横浜に向ふ、午后、一時より三時迄神奈川県講習会に高等女学校に莅み、「日本の武士道学派」に就いて講述す、聴衆四百余名、夜、七時頃帰宅、大江文城及び本多日生より来状、齋藤基次郎及び吉田雪子来談す、「明治天皇陛下の御人格」東洋時報に出づ、此日、返電を若松港の大町及び阿部二氏に送る、

廿二日、午前、曇天、有馬祐政及び鈴木宇良安より来状、大江文城より菓子(歌仙松風)と「若松強齋先生事歴」とを送来る、午後、神奈川県講習会に赴く、不在中井上波野来る、夜、後藤新平より招待状来る、書状を大江文城、井上成美、黒木安雄に送る、

廿三日、午前、晴天、小谷重、加藤末吉、呉秀三、佐伯常麿、浦谷熊吉、岸田時夫、来訪す、女中きよを岸田繁次郎宅に遣はす、午后、矢野滄浪より来状、「実業修身」百五十部の奥附を文学社に付与す、勉強、岸田繁次郎をして山田喜之助の葬式に会せしむ、墨子問詁を読む、夜、墨子問詁を読む、素行会より校正を送来る、校正を素行会に送る、勉強、風強し、

廿四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、山田喜之助会葬の礼状、女中ちよを大学に遣はす、「教界春秋」を草す、哲学会よ

り為換を送来る、午后、晴天、金港堂より書状と奥附とを送来る、元良米子、山岸光宣、秋山悟庵、帝国学士院書記来訪す、「教界春秋」を草す、井上匡四郎より来状、夜、「教界春秋」を印刷所に送る、藤田季莊来訪す、書状を黒木安雄に送る、「修身例話辞典」の序を小谷重に送る、原稿を文成社に送る、

廿五日、午前、曇天、内ヶ寄作三郎及び内堀維文より来状、拓殖博覽会事務報告を送来る、Zeller, Die Philosophie der Griechen 及び Grundriss der Geschichte der Geschichte der griechischen Philosophie を読む、電柱架設の為に工夫数人来る、午后、雪、後小雨、引続き Zeller を読む、教科書会より書類来る、夜、帝国大学より来状、引続き Zeller を読む、井上成美より来状、又雪、

廿六日、午前、曇天、満都白雪皚々、学習院に赴く、帰途車中元良米子に逢ふ、午后、晴天、小野田亮正来る、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、富田貞松、全俊夫より来状、夜、引続き Zeller を読む、勉強、兵庫県伊丹図書館より来状、

廿七日、午前、晴天、帝国学士院より来状、勉強、午后、講義に大学に赴く、帰途坪井正五郎宅に立寄り、岸田時夫、中央会堂及び石川貞吉より来状、浦谷熊吉来談す、縫子、吉田宅に招燕せられて赴く、夜、書状を大学の庶務課に送る、休養、

廿八日、午前、晴天、「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、縫子、押田三郎宅に赴く、桑木嚴翼より「哲学綱要」を送来る、書状を桑木嚴翼に送る、四宮兼之来る、Hofding, Psychologie in Umrissen を読む、午后、曇天、原稿を素行会

に返送す、教科書会に文部省に赴く、不在中白坂栄彦、県知
事の礼状を携来る、三上参次の使者に「学脈弁解」を付与す、

- 来る、午後、成瀬仁藏来談す、「新編修身」二千五百部の奥附を金港堂に付与す、「呂氏春秋」を読む、研究、夜、研究、中島利一郎より書状と詩稿とを送来る、
- 九日、午前、晴天、小澤錦十郎及び瀧尾新等より来状、三島復来訪す、護国寺に赴き、大塚先儒墓所保存会に莅む、坂谷芳郎、澁澤栄一、山川健次郎、小牧昌業、股野琢等と会见す、「頁下部」先賢地下に饗けん・儒者棄場愈々市の名勝となる」の新聞記事切抜貼付）不在中田中義能、天生目一治等来訪す、浦谷熊吉、大倉保五郎来訪す、中島徳藏より餅と鯉節とを送来る、小牧昌業より「薩摩史談集」を送来る、研究、「呂氏春秋」を読む、夜、岸田繁次郎来談す、研究、
- 十日、午前、晴天、西村豊より来状、講義に大学に赴く、午後、島中雄作来る、乃ち談話を筆記せしむ、寺澤鎮来訪す、土屋新之助来る、乃ち談話を筆記せしむ、文科大学、若木廣良、山中六彦より来状、書状を黒木安雄、若木廣良及び西村豊に送る、詩稿を黒木安雄に送る、中島靖九郎より使者来る、文科大学より書類来る、書状を小牧昌業に送る、岸田蒔夫、原稿を携来る、夜、文成社員来る、乃ち談話を筆記せしむ、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、
- 十一日、午前、晴天、森良三郎、浦谷熊吉来談す、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、午後、水島耕一郎来訪す、勉強、「倫理と教育」の奥附(壹百部)を弘道館に付与す、服部宇之吉より来状、専攻科学生の招待に茗溪会に赴く、夜、西村豊より来状、教科会より書類来る、
- 十二日、午前、晴天、「中学修身」一千五百部の奥附を文学社に付与す、学習院に赴く、「木石にも魂はある」讃岐日々新聞に出づ、午後、教授会に山上御殿に赴く、夜、帝国学士院に赴く、十三日、午前、晴天、研究、午後、講義に大学に赴く、小谷重より来状、夜、「呂氏春秋」及び「二程全書」を読む、岸田繁次郎より来状、姉崎正治より来状、
- 十四日、午前、晴天、西田快忍来る、乃ち談話を筆記せしむ、寺澤鎮来る、乃ち談話を筆記せしむ、浦谷熊吉、堀謙徳来訪す、書状を貞金近松に送る、「木石にも魂はある」芸備日々新聞に出づ、「青年の政治趣味と愛国心」日本及日本人に出づ、「近代思想の解剖」を小林一郎に送る、「呂氏春秋」を読む、午後、宮本和吉来談す、書状を大島健一に送る、文明協会より「生

服部宇之吉より袱紗を送来る、「呂氏春秋」を読む、勉強、

を送来る、早川先

禪糸萬京よ春語萬合东

挺愀骨し蔽蒙蒙蒙蒙

十七日、午前、小雨、廣田直三郎及び修養団島田支部より来状、講義に大学に赴く、杉山直喜より速記を送来る、午后、秋

山悟庵、亀谷凌雲、岸田繁次郎、岩橋遵成及び女中きよの母来訪す、

帝国学士院の使者来る、Lewes, History of Philosophy を読

む、夜、速記を訂正す、此頃「読書の趣味」読売新聞に出づ、

十八日、午前、晴天、彼岸の入、速記を訂正す、午后、曇天、速

記を訂正す、峰間信吉より来状、峰間信吉、橋本文壽、荻原

擴、勝島林藏、近藤正治、佐藤廣治、卜部岩太郎、竹林貫一、内

野台嶺、黒田傳次郎、熊澤圭三、久米卯之彦、矢澤邦彦、神逸郎、

総計拾四名、東亜協会々員となる、原稿を日清印刷会社に送る、

押田三郎、上州河原湯温泉より絵葉書を送来る、齒医者に赴

き、尋いで大塚より小日向を運動して帰る、浦谷熊吉来談す、

文科大学より来状、夜、勉強、

十九日、午前、雨天、学習院に赴く、帰途齒医者に赴く、車中

乃木大将「所感録」を読む、午后、曇天、教授会に山上御殿に

赴く、九鬼周造来訪す、夜、哲学会に山上御殿に赴く、岸

田繁次郎より来状、希臘王ジョージ一世、十八日サロニカに於

て社会主義者シナスの為に狙撃せられて崩す、

二十日、午前、半晴、研究、「木石にも魂はある」新潟新聞に出づ、

午後、晴天、講義に大学に赴く、大学より「大日本古文書」(附

録之一)を送来る、由布惟義より来状、夜、北村沢吉来訪す、

帝国学士院より来状、

廿一日、午前、曇天、春季皇靈祭、春山育次郎、浦谷熊吉、阿藤俊

雄、大壁早治、鷲尾順敬、来訪す、岸田蒔夫より書状と原稿と

計金五拾貳円六拾九銭を郵便局に納む、 学習院女子部に赴き、
専修科の生徒と午餐を共にす、 博文館より「武士道叢書」の奥
附千枚(中巻五百下巻五百)を送来る、 午后、井上波野来談す、

Bergson, *Essai sur les données immédiates de la conscience*
を読む、 芳賀矢一より来状、 「武士道叢書」一千部の奥附を
博文館に送る、 書状を由布惟義に送る、 夜、雑誌類を読む、
少しく喉頭加答児の気味あり、 休養、

廿六日、午前、晴天、東亜の光口絵来る、乃ち解題して之を印刷所
に送る、 政教社より来状、 此日、熱あり、臥褥、 夜、山上
御殿に孔子教研究の会あり、不赴、 帰一協会より来状、

廿七日、午前、晴天、姉崎正治代りて淑徳女学校の卒業式に赴く、
晩成処より小包を送来る、 「戊申詔書述義」二百五十部の奥
附を晩成処に送る、吉田熊次代りて暁星学校卒業式に赴く、吉
田雪子来る、 午后、井上成美来る、 大倉書店より「学生宝鑑」
を送来る、 晩成処より来状、 夜、吉田熊次来訪す、 「実業
修身」三百五十部及び「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与
す、 此日、帝国議会閉会、

廿八日、午前、晴天、野口米次郎来訪す、 晩成処より小包を送来
る、 渡辺眞来診す、 宣光、肺炎の萌あり、 姉崎正治代りて
成女学校卒業式に赴く、 栗原英之助より来状、 午后、金港堂
より「修身例話辞典」を、文部省より「国定教科書意見報告彙纂」
を送来る、 此頃木川又吉郎、牧瀬五郎来訪す、 石田某、菓子
箱と「修道講話」を携来る、 夜、井上成美来談す、 早川千吉
郎の招燕を辞す、

廿九日、午前、晴天、教科書会より来状、 吉田熊次、岸田繁次郎

来る、 齋藤基次郎、渡辺眞来診す、 午后、深作安文、松原一
義来訪す、 夜、風雨、 少しく軽快、 九鬼隆一の招燕を辞す、
宣光亦軽快、

三十日、午前、晴天、田中秀明、「和事始」を携来る、 由布惟義
より来状、 晩成処より奥附を送来る、 小杉熙、谷内正順、成
瀬仁藏、来訪す、 黒川眞道、書籍を携来る、 午后、高等師
範より来状、 奥附拾数枚を晩成処に送る、 夜、博物館及び
暁星中学より来状、 此日、「勅語教本」三〇〇部、「師範修身」
五〇〇部の奥附を晩成処に付与す、

卅一日、午前、晴天、吉田熊次来談す、 書状を帝国学士院に送る、
碑文を修正す、 石田彦三郎来訪す、 午后、森良三郎、春山
育次郎来談す、 碑文を修正す、 「女子修身」四八〇部、「農
業修身」五〇部、「新編倫理」一〇〇部の奥附を金港堂に付与す、
桑原武吉、井上成美来訪す、 夜、国語調査会及び宮田修より
来状、「東亜の光」(八の四)成る、「憲政の実現と建国の大義」
東亜の光に出づ、 此頃「小学教師の修養」小学校に、「憲政論」
中央公論に出づ、

四月

一日、午前、晴天、井上成美来る、乃ち碑文及び其他の文章を修正
して之を付与す、 成美と昼食を共にす、 午后、谷内正順、伊
藤吉之助、宇野哲人、石田彦三郎及び深作安文妻来訪す、 前川
清より来状、 書状を貞金近松に送る、「釈迦と人生」日本宗
教新聞に出づ、 夜、伊藤吉之助、西沢富則来訪す、 大塚先儒
墓所保存会より来状、

二日、午前、晴天、浦谷熊吉、谷内正順来訪す、「実業修身」巻

百部の奥附を六盟館に付与す、女中千代を文部省及び三井銀行に遣はす、「修養と読書」読書之友に「時代の悪化と救済」国民時報に出づ、午后、教科書会に文部省に赴く、不在中武内紫明来訪す、桜花半開く、原真十郎より来状、「政変と教育家の覚悟」内外教育評論に、「修養と勉学」向上に出づ、夜、人間郡教育会頭市川春太郎より来状、

八日、午前、雨天、平塚雉鳩来訪す、電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、午后、晚成処より小包を送来る、「戊申詔書述義」貳百部の奥附を晚成処に付与す、引続き Bergson を読む、青木賢次郎、蓮沼門三より来状、

生訓」を読む、此日、乃木邸東京市有となりし奉告祭を行ふ、十四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、哲学研究室に赴き、尋いで三浦謹之助を病院に訪ふ、横山藤右衛門より来状、午後、浦谷熊吉、岸田繁次郎来談す、井上成美より「南竹文集」式拾部を送来る、富田順吉及び文科大学より来状、宣光、大、学病院に入院す、縫子伴ひ行く、Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、齋藤基次郎来訪す、夜、引続きZellerを読む、益軒祭の案内状を由布惟義及び林養直に送る、縫子、八時頃帰宅、「吞象楼遺稿」を読む、此日、乃木邸始めて開放せられ、一般世人の參觀を許す、乃木会亦設立せらる、十五日、午前、曇天、木村正辞の訃報至る、晩成処より小包を送来る、縫子、大学病院に赴く、永井萬太郎より来状、「勅語述義」参百部の奥附を晩成処に付与す、Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、清水彦五郎、昨夜逝去すとの報あり、「吞象楼遺稿」を読む、富山房より訳文フアウスト二冊を送来る、午后、小雨、引続きZellerを読む、「女子修身」一千部及び「新編修身」参百部の奥附を金港堂に付与す、「吞象楼遺稿」を読む、夜、研究、

十六日、午前、曇天、修養団及び教科書会より来状、学習院に赴く、清水彦五郎を其宅に甲ふ、岸田繁次郎来る、午后、晴天、庭園の桜花殊に好し、教授会上山御殿に赴く、宣光を病院に訪ふ、文部省より来状、菓物志籠を清水彦五郎に送る、女子大学より来状、春山育次郎来訪す、夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、林養直より来状、益軒祭案内状を喜田貞吉、幣原坦、平塚雉鳩に送る、

十七日、午前、曇天、書状を岸田繁次郎に送る、勉強、縫子、病院に赴く、林養直より益軒の遺墨三点を送来る、午後、講義に大学に赴く、二六新聞社員大学に来訪す、有故不遇、根本通徳及び端艇祝捷会より来状、岸田繁次郎をして清水彦五郎の葬式に伝通院に会せしむ、押田清子、松原一義来訪す、晩成処より小包を送来る、夜、小雨、書状を岸田繁次郎に送る、「勅語要義」式百部の奥附を晩成処に付与す、速記を訂正す、「史記」を読む、此頃米国加州排日問題囂々たり、

十八日、午前、晴天、芳賀矢一、廣田吉太郎及びStanley L. Guickより来状、浦谷熊吉、春山育次郎、岸田繁次郎来談す、杉山直記より速記を送来る、書状を岸田繁次郎に送る、女中千代を文部省及び三井銀行に遣はす、伯爵徳川達孝及び嘉納治五郎より来状、午後、日本弘道会より御礼を送来る、書状を由布惟義に送る、根本通徳、岸田繁次郎、中島利一郎、有馬祐政来訪す、速記を訂正す、夜、速記を訂正す、東亜の光原稿を印刷所に送る、心理学会の速記を訂正す、

十九日、午前、晴天、心理学会の速記を訂正す、渡辺徹来訪す、午後、伊藤吉之助、Avenarius, Kritik der reinen Erfahrung, 2 Bdeを携来る、加藤末吉、「実験修身教授法」を携来る、速記を訂正す、上田萬年の使者来る、教科書两会より翁正す、東亜の功郎来談す、杉山^{ヲセ} 頼荒 直記

三郎に、南竹文集と菓子を姉崎正治に送る、祝電を東林寺に送る、熊坂圭三、写真を携来る、渡辺徹来る、乃ち之に原稿を付与す、田中義能、埜口徳太郎等来訪す、午后、貝原益軒二百年祭を大学山上御殿に執行す、引続き講演会を法科廿九番室に開く、聴衆約数百名、(頁下部に「益軒二百年祭 帝大内御殿にて 頗る盛大に挙行さる」の新聞記事切抜貼付) 夜、有志懇親会を山上御殿に開く、来会者約三十余名、帝国学士院より来状、此日、佐藤進古、矢野恒太、東亜協会々員となる、東林寺に於て除幕式を行ふ、

廿一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、宣光を病院に訪ふ、不在中浦谷熊吉来訪す、三上義夫より「The Development of Mathematics in China and Japan」を送来る、「実業修身」吉百部の奥附を六盟館に付与す、和田萬吉を大学図書館に訪ひ、「南竹文集」を寄附す、午后、「中学修身」吉百五十部の奥附を文学社に付与す、「南竹文集」を国民新聞、時事新報、東京朝日新聞、日々新聞、読売新聞報知及び萬朝報の七社に送る、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、ライプチヒの書肆 B. G. Teubner より来状、縫子、宣光を病院に訪ふ、堀謙徳、岸田繁次郎、埜口徳太郎、齋藤勇、押田清子来訪す、大江山城より「蘭亭会記念葉書」を送来る、大学より「大日本古文书」巻冊を送来る、「吞象楼遺稿」を読む、夜、帝国大学図書館より来状、書状を独逸ライプチヒ市 B. G. Teubner に送る、「吞象楼遺稿」を読む、坂谷芳郎及び小林正策より来状、廿二日、午前、曇天、高子、遠足に鴻ノ台に赴く、浦谷熊吉来談す、ギューリックの著書の序文を草す、塚本與三郎より「青

山学院校友会々報」を送来る、午后、小雨、序文を草しりて之を Sidney L. Guick に送る、同時に「諸科学の性質及び関係」の原稿を送返す、アルツール、キルヒホフより Zeitung Der Neulingen 及び書類を送来る、桑木嚴翼より来状、研究、四時頃高子帰来る、夜、カント誕辰会を山上御殿に開き、「カントの人格性行及び位置」に就き、一場の講演をなす、来会者約五十名、頗る盛会なりき、

廿三日、午前、小雨、学習院に赴く、「実業修身」吉百部の奥附を六盟館に付与す、土屋新之助より来状、春枝、風邪に罹り、発熱す、午后、曇天、田中秀明、由布惟義より来状、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、小林義則より来状、「修身備考」式百部の奥附を文学社に付与す、渡辺眞、春枝を来診す、女中つるを大病院に遣はす、大和田眞彦来訪す、夜、晴天、勉強、「吞象楼遺稿」を読む、

廿四日、午前、晴天、孔子祭典会より来状、文明協会より「死の研究」及び「舞踊と歌劇」を送来る、勉強、午后、勉強、講義に大学に赴く、加藤玄智と会談す、宣光を病院に訪ふ、夜、日本学会に山上御殿に赴く、坪井九馬三及び小林丑三郎の講演あり、来会者約二十四五名、日之出生命保険会社等より来状、根津神社宮司宮西惟助、東亜協会々員となる、

廿五日、午前、晴天、春山育次郎来訪す、午后、計見東山より後樂園参観券を送来る、「教界春秋」を草しりて之を印刷所に送る、「養生訓」を読む、大学より「大日本史料」を送来る、夜、「養生訓」を読む、Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、「吞象楼遺稿」を読む、

廿六日、午前、曇天、浦谷熊吉来談す、 Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、「養生訓」を読む、武島又次郎より来状、午后、押田清子来る、「養生訓」を読む、丁西倫理会に多賀羅亭に赴く、坪野平太郎、隈本有尚、岡田哲藏等と会見す、夜、帰一協会、星野教授祝賀会及び姉崎正治より来状、「尚書集解」の序を作る、

廿七日、午前、曇天、濃霧、春山育次郎来る、乃ち之に東軒真筆の「克明抄」を付与す、福来友吉の使者、書状を携来る、「尚書集解」の序を作る、国廣知二来る、有故不遇、「養生訓」を読む、午后、強風、谷内正順来訪す、「吞象楼遺稿」を読む、鳥村抱月より訳文「人形の家」を送来る、雨、「南竹文集」を小金井良精及び富士川游に送る、研究、井上波野より絵葉書を送来る、「国典十講」を読む、縫子、不快を患ふ、夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、「国典十講」を読む、晩成処より小包を送来る、

廿八日、午前、小雨、講義に大学に赴く、宣光を病院に訪ふ、「師範修身」式百五十部の奥附を晩成処に付与す、「実業修身」巻百部の奥附を六盟館に付与す、午后、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、貞金近松来談す、夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、吉田静致及び工藤卓爾より来状、松原一義来る、乃ち之に「尚書集解」序を付与す、此日、縫子春枝皆恢復、宣光亦殆ど恢復、

廿九日、午前、曇天、村岡素一郎より来状、 Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、浦谷熊吉及び押田清子来談す、吉田静致来る、乃ち之に Avenarius, Kritik der reinen

Erfahrung を貸与す、午后、晴天、帝国学士院の委員会に上野に赴く、櫻井錠二、姉崎正治及び江川壽太より来状、速記を訂正す、教員検定委員会より来状、夜、引続き速記を訂正す、益軒の書三幅を林養直に送返す、女中千代を病院に遣はす、書状を林養直に送る、 Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、「養生訓」及び「吞象楼遺稿」を読む、此頃、排日問題愈々紛糾を極む、

三十日、午前、晴天、文成社及び晩成処より来状、書状を岩田儼太郎、結城三次及び黒河長次郎に送る、靖国神社大祭の故を以て学習院休講、 Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、森良三郎来る、瀬戸虎記より来状、午后、曇天、教授会に山上御殿に赴く、宣光を病院に訪ふ、野村逸民写真を携来る、工学博士中村達太郎の為、参円を、故穂積博士の為、参円を寄附す、文成社の使者来る、夜、松原一義、岸田繁次郎来訪す、勉強、

五月

一日、午前、曇天、澁澤栄一より来状、弓場法梁来訪す、有故不遇、研究、縫子、宣光を病院に訪ふ、杉山直喜より速記を送来る、齋藤謙藏より来状、午后、雨天、井上成美来談す、講義に大学に赴く、文科大学より論文五篇を送来る、文科大学より来状、「東亜の光」(八の五)成る、「孔子教」と中

日置健太郎来訪す、宗兵藏及び武田耕一より来状、村上直次郎「異国日記抄」を携来る、速記を訂正す、書状を貞金近松に送る、午后、半晴、岩橋遵成の妻、参州蜜柑を携来る、学生の論文を読む、夜、帰一協会に上野精養軒に赴く、

三日、午前、曇天、宣光を病院に訪ふ、午后、ハーバード大学名誉教授ピーボデー博士招待会に大学山上御殿に赴く、瀨尾新、相馬永胤、新戸部稻造、金子堅太郎、ローレンス等と会見す、法科三十二番地に於てピーボデー博士の講演を聴く、富士川游より来状、不在中橋惠勝、茶器奩箱を携来る、雷雨、縫子、病院に赴く、宣光全快、退院して帰る、松原一義「尚書集解」を携来る、文科大学の使者来る、乃ち之に学生の論文を付与す、高賀 三郎、東亜協会々員となる、夜、雨天、日置健太郎、岡部良英、服部一郎より来状、勉強、此日、「女子修身」一百部及び「中学修身」一百部の奥附を金港堂に付与す。

四日、午前、全晴、中村宗作及び渡辺藤左衛門より来状、日本女子大学校に赴き、「実人生に就いて」一場の演説をなす、不在中寛克彦、古城貞吉、田中義能及び橋惠勝来訪す、外相牧野男爵より来状、Rudolf Eucken, Der Sinn und Wert des Lebens を読む、午后、「国典十講」を読む、縫子、児輩を携へて吉田宅に赴く、富田三省より来状、夜、「国典十講」を読む、

五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、三浦謹之助を病院に訪ふ、午后、橋惠勝、森良三郎来訪す、春枝、遠足に大磯に赴く、書状を牧野外相に送る、「大日本仏教全書」を送来る、夜、ピーボデー歓迎会上野精養軒に赴く、菊池大麓、新戸部稻造、グリーン、マツコーレー、床次竹二郎、添田壽一、塩沢昌貞、浮

田和民等と会見す、不在中宮本和吉、「新理想主義の哲学」を携来る、教科書会より来状、
六日、午前、晴天、大場豊吉より来状、浦谷熊吉来談す、益去从癩告 & 爐告

に送る、 統一団より速記を送来る、 夜、雨天、書状を中島次郎吉及び景浦直孝に、葉書を大場豊吉及び阪了介に送る、「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、 此日、山川健次郎、東京帝国大学総長となり、澤柳政太郎、京都に総長となり、眞野文二、九州に、北条時敬、東北に総長となる、

十日、午前、晴天、三上參次より来状、 浦谷熊吉、姉崎正治、押田清子来談す、 大日本家政学会員額賀綱五郎来る、乃ち之に原稿を付与す、 福来友吉より来状、 女中千代を東海銀行に遣

一訪す、書状を前田利為に送る、学生の論文を読む、南竹文集吉部を深作安文に付与す、午后、瀧田哲太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、学生の論文を読む、杉山直喜より速記を二回に送来る、速記を訂正す、宣光、吉田宅に赴く、運動に

刷所に送る、文科大学の使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、
「宮城外の祈願者に関する談話」国民新聞に出づ、午后、「教
界春秋」を草す、夜、丸善に赴き、店員百数十名の為に、「三
宝の話」をなす、十時頃帰宅、此日、野田義夫及び押田三郎を
招宴す。

廿五日、午前、晴天、「理想主義の永久的価値」中外日報に出づ、
鼓常良、「ファウスト評論」を携来る、谷内正順、葉山萬次郎、
淺野利三郎来訪す、午后、春季哲学会大会に大学に赴く、夜、
哲学会評議員会を山上御殿に開く、九時半頃帰宅、此日瀆家

廿一日、午前、快晴、森良三郎、井芹經平、加藤玄智来訪す、縫子、雪子清子等と華族会館に赴く、午后、伊藤吉之助、大和田眞彦来訪す、文成社より使者来る、Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、夜、成功雜誌社及び幣原坦より来状、金港堂より使者来る、「東亜の光」(八の六)成る、「国体と政体との關係」東亜の光に出づ、

六月

一日、午前、晴天、田中義能来訪す、「教育と文芸」の序文を草す、先月三十日以来電灯五箇を新設し、漸く全く成る、春枝、益之進、高子、家族会に横浜本牧に赴く、午后、「教育と文芸」

七日、午前、雨天、浦谷熊吉、吉田雪子来談す、縫子、買物に

三越に赴く、Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

日本学会案内状五通を発送す、午后、書状を乾菊宋に送る、

女中きをに書状を托し、姉崎宅に遣はす、Henri Bergson,

Matière et Mémoire を読む、教科書会より書類来る、夜、

日本学会に山上御殿に赴く、宇野哲人、塩澤昌貞の講演あり、

雨歌む、十時半頃帰宅、土谷佐太郎より来状、

八日、午前、晴天、書状を二回帝国学士院に送る、曾根松太郎来

訪す、Henri Bergson, Matière et Mémoire を読む、縫子、

高師附属小学校父兄懇話会に赴く、藤澤誠太より来状、午后、

縮緬吉反に書状を添へて三浦謹之助に、縮緬の兵児帯に書状を添

へて塩谷不二雄に送る、芳賀矢一来訪す、杉山直喜来る、乃

ち談話を速記せしむ、縫子、春枝と共に音楽学校演奏会に赴く、

夜、明治聖徳記念学会に偕行社に赴き、「日本文明研究の必要」

に就いて一場の講演をなす、南條文雄、鈴木信仁、伊崎少将等と

会見す、江川壽太より来状、三浦謹之助より書状を携へて反

物を返来る、

九日、午前、晴天、東洋哲学史概説の修了試験を行ふ、上野竹

之台に之き大平洋画会を観る、午后、曇天、貞金近松来談す、

北隆館より草書大辞典二冊を送来る、文科大学及び塩谷不二

雄より来状、在独国莱府友枝高彦、書状を添へて一論を送来

る、教科書会に文部省に赴く、会了りて後江木千之と懇談す、

夜、晚餐を三河屋をなして神田の各書肆を訪ひ、書籍三部を購

入す、八時頃帰宅、文科大学より試験答案を送来る、B.G. Teubner より来状、不在中大島正徳、白石実三来訪す、「女

子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、帰一協会より First

Report of the Association Concordia of Japan 一冊を送来る、

十日、午前、晴天、浦谷熊吉来談す、縫子を正金銀行支店に遣はす、

為換を封入亂「」フ「」燹ヒ」マ」

省に赴く、試験の答案を読む、女中千代を東海銀行に遣はす、夜、「武芸小伝」を読む、硫酸会社より来状、北澤写真館より写真を送来る、岸田繁次郎来る、試験答案を読む、十四日、午前、曇天、井芹経平より来状、文明協会より「近代犯罪学説」及び「近世応用電気学」を送来る、多木悦造、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎、森良三郎、大島正徳来訪す、「古事類苑」(地部二)を送来る、押田三郎、横浜郵便局電話課長を命ぜらる、午后、兒玉實徳、押田三郎来訪す、縫子、押田宅に赴く、北澤写真館に赴く、雨、試験答案を読む、伊波普猷琉球より、若守義孝、イエナより書状を送来る、夜、雨天、学生の答案を読む、十五日、午前、雨天、「益軒の修養及び著書」読売新聞に、「弘法大師に對する感想」密教世界に出づ、高田忠周、「説文捷要」、「漢字系譜」及び「漢字詳解」を携来る、白石実三来る、乃ち談話を筆記せしむ、黒田侯の詩稿を読む、蓮沼門三より来状、午后、半晴、黒田侯の詩稿を読む、書状を安達鉄造に送る、学生の答案を読む、帝国学士院より来状、東亜協会勧誘状を佐々木信香、福井彦次郎、八木繁四郎、雀部顯真、木幡忠、小林嘉平治に送る、夜、晴天、通俗教育普及社より来状、学生の答案を読む、十六日、午前、曇天、原田稔甫、山口袈裟六、深作安文来訪す、学生の答案を読む、安東守男、「安東省菴」三部を携来る、午后、雨内紫明、川守田武一、鈴木貞吉、乾菊栄、岸田繁次郎、武藤儀亮、中島利一郎来訪す、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、「安東省菴の学説」安東省菴に出づ、夜、和田垣謙

三、神保小虎、入澤達吉、高楠順次郎、三好学等の送迎会に山上御殿に赴く、「本朝武芸小伝」を読む、十七日、午前、晴天、学生の答案を読む、女中千代を学習院に遣はす、浦谷熊吉来談す、菓子を押田三郎に送る、午后、曇天、学生の答案を読む、小谷重来談す、女中千代を三井銀行に遣はす、縫子、清子と共に外出す、グリーン叙勳祝賀会上野精養軒に赴く、塩澤昌貞、高木王太郎、早川千吉郎、麻生正藏、根本正、海老名弾正等と会見す、夜、十時過帰宅、杉山直記を送来る、奥田義人より来状、「国際調査会官制廃止相成随て委員の職も自然廢職と相成候」旨通知し来る、教科書会より書類来る、十八日、午前、晴天、三坂亥吉及び明治聖徳記念学会より来状、工藤高治より「藤廼舍集初篇」(上)を送来る、学習院女学部に赴く、工藤高治より来状、速記を訂正す、午后、曇天、速記を訂正す、浦谷熊吉来談す、縫子、高子を拉して運動に外出す、夜、原稿を印刷所に送る、学生の答案を読む、縫子、歯痛を患ふ、十九日、午前、曇天、澁澤栄一及び井原豊作より来状、縫子、歯医者に赴く、り来状、縫子、歯柔医者に赴く、り来衰灸、炊鏝夏翠、笈櫛翠

大定来訪す、 午后、九鬼周造、浦合熊吉、建部遯吾、大島正徳
来訪す、 学生の答案を読む、 夜、哲学会に山上御殿に赴く、
黒木安雄より黒田侯の詩稿を送来る、 此日、乃木会より来状、
縫子、押田宅に赴く、

廿一日、午前、晴天、和辻哲郎より来状、 福井晋太郎来訪す、
学生の答案を読む、 押田夫妻及び吉田雪子来る、乃ち与に俱
に昼餐をなす、 午后、押田夫妻、横浜に向つて出発す、春枝、
正勝、益之進送りて新橋に至る、 黒田侯の詩稿を読む、 井上
波野来談す、 詩稿を中島利一郎に送る、 夜、南千住の通俗教
育会に赴き、「神道と国民性」を演述す、 吉田利利兵衛（町長）、
田中午太郎（助役）、石山義元（社司）等と会見す、 帰途加藤
咄堂と車中に逢ふ、 教科書会及び福井晋太郎より来状、

廿二日、午前、雨天、花輪郡藏、貞金近松来訪す、 学生の答案を読む、
午后、曇天、引続き学生の答案を読む、 日清印刷会社より「東
亜の光」口絵を送来る、 丁酉倫理会に大学に赴く、 夜、晴天、
九時頃帰宅、 不在中渡部董之介来訪す、 多木悦造、菓子箱を
携来る、 松浦厚及び小谷重より来状、 素行会より「山鹿素行
先生と乃木將軍」を送来る、「宗教と教育」に関する談話、日
本宗教新聞に出づ、 高子稍々軽快、 学生の答案を読む、

夜、伊藤吉之助来訪す、諸葛孔明の心書を読む、Kraft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、此日、大塚先儒墓所保存会の為に金参拾円を寄附す、

廿七日、午前、晴天、角田松壽、池田敏幸来訪す、富田美次郎より来状、午後、浦谷熊吉来談す、坪井正五郎の葬式に伝通院に赴く、奥田義人、志賀重昂、浮田和民、成瀬仁藏、長岡半太郎、荻野伸三郎等と会見す、文科大学及び伯林市新聞の新聞社より来状、光雲神社々司尾崎臻より絵葉書来る、瀧家熊雄来訪す、

「武田信玄」を読む、夜、引続き「武田信玄」を読む、矢野茂より来状、書状を姉崎正治に送る、諸葛孔明の心書を読む、Kraft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、此日、高子、殆ど全快、

廿八日、午前、曇天、伊藤吉之助来訪す、諸葛孔明の心書を読了る、午後、手塚光貴来談す、Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、帰一協会及び大日本通信中学校金沢市分校より来状、夜、帝国学士院より来状、引続き Max Verworn を読む、Kraft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、

廿九日、午前、晴天、啓成社より「教育と文芸」を送来る、森良三郎、松浦一、山口袈裟六、山岸光宣、得能文、堀田相爾来訪す、弘道館より印税と「現代思潮十講」とを送来る、鳥子餅を深作安文に送る、深作安文より礼状来る、午後、岡島誘来訪す、神道談話会に山上御殿に赴く、権田雷斧の講演あり、掘善之丞、渡辺村男より来状、黒木安雄より詩稿を送来る、夜、黒田侯の詩稿を読む、詩稿を中島利一郎に送る、吉田熊次夫妻来談す、Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

三十日、午前、晴天、教授会に山上御殿に赴く、縫子を三井銀行に遣はす、「大日本仏教全書」を送来る、片山教授在職廿五年の祝賀の為に金五円を寄附す、午後、四宮兼之、浦谷熊吉、森良三郎、小倉清三郎、岸田繁次郎来訪す、文成社及び金港堂の使者来る、佐々木喜市、坂本稔、久保田勝弥、埜口徳太郎、東亜協会々員となる、夜、山名祥治来訪す、文部省より来状、云く、「教員検定委員会臨時委員被仰付」(六月二十八日) Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)
(もりもと さちこ 東京大学文書館)